

令和6年度 第2回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和6年8月30日(金曜日)午後3時から午後5時まで

<開催場所> 宇治市役所議会棟3階 第3委員会室

<出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
平井 恭子	京都教育大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
浅山 尚紀	京都府山城広域振興局 局長
小林 幸大	株式会社京都銀行 宇治支店長
永田 悠祐	連合京都南山城地域協議会 幹事
水腰 英樹	株式会社京都新聞社 南部総局長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事長
森崎 恭平	市民公募委員
山本 奈々	市民公募委員

計12名

<事務局等>

川口 龍雄	宇治市 副市長
荻野 浩造	政策企画部 部長
大北 浩之	政策企画部 副部長
佐々木 卓也	政策企画部政策戦略課 課長
上田 敦男	政策企画部政策戦略課 副課長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課 係長
辻 優貴子	政策企画部政策戦略課 主任
田口 茂仁	デジタル政策課 課長

計8名

<会議次第>

1. 開会

2. はじめに

3. 議事

議事 (1) 第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略中間総括(案)について

議事 (2) 定住・転入・転出に関するアンケート調査について

議事 (3) 第3期宇治市人口ビジョン(案)について

議事 (4) 次期創生総合戦略の基本目標(案)について

4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

2. はじめに

《事務局より挨拶》

3. 議事

議事 (1) 第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。中間総括の案についてご説明をいただきましたが、只今の説明に関しまして、ご質問、ご意見がございましたら、挙手をお願いいたします。

委員) 3ページの中で、KPIの達成状況とのご説明があったと思います。どこかにもし記載があれば申し訳ありません。5ページに人口動態の説明があり、その中で令和3年～5年で、人口動態の減少に繋がったとありましたが、具体的に何を行い成果に繋がったのかということが分かるものは、どこかに記載はございましたか。

事務局) 今おっしゃって頂いた5ページの社会動態が改善傾向にあるという点につきまして、何か特定の取組という訳ではなく、様々な取組を積極的に進めてきたことにより、結果として減少に繋がったというように考えております。

委員) ありがとうございます。

委員) ご説明を聞き大変分かりやすく、これまで様々なことをされてきたことが結果になっているというのは概ね分かりました。ですが3ページで、やろうとしてきた目標に

対して達成率 80%以上というのが、目標達成の恐らく 1つの指標で、それが前提であれば、例えば民間企業であれば、目標をどう捉えるかというところから入り、「目標は達成して当たり前」と考えることが我々の持っている感覚ですが、その目標達成 80%以上の割合が 50%に達していないという現実を見た時に、「頑張っている」という評価なのか、「全然駄目」という評価なのか。その辺はどのようなご認識でしょうか。

事務局) ご指摘頂いたとおり、「目標を達成して当然」という考え方で評価をすると、本来 80%達成しているものがすべてになるべきところで、50%という結果は厳しい状況だとは考えております。ただ、もともと目標値としているもので言いますと、例えば、32 ページで妊婦面談率というものについて目標を置いており、こちらは 100%を目標にずっと取組を進めています。そこがお一人達成できなかったということでも目標の 100%を達成できないのですが、先程おっしゃって頂いたように「達成して当然」という目標の設定もあれば、中には「現実的にすぐ可能ではないが、目標としては高いところに置いている」という目標値もありますので、一概に「全然駄目」という評価をしているわけでもないと思っております。

委員) 概ね分かりました。我々が肌感覚として持っているのは、目標が達成できていない、もしくは、今おっしゃられたように、「設定がそもそも…」というところも恐らくあると思いますし、中には「やるべきことができていないので達成できていない」ということも恐らくあると思っております。その目線で、6 ページの実際の社会動態の改善、それに関する評価のところを見ていると、この辺の分析もされているのですが、我々であれば、「結果、実際増えています。でも評価が低いです」となったら、「たまたま増えただけで、もっとやるべきことがあるのではないか」という感覚が一般的な捉え方だと思います。その帰結が、目標の適切な指標の設定に努めるということになると、「いや、もともとの目標があまり良くないのではないか」というような話にすり変わっているような感じがします。本来やるべきことというのをもっと突き詰めて検証していく必要があるのではないかと思いますので、敢えて、厳しいようですが、ご指摘をさせていただきます。以上です。

委員長) ありがとうございます。今のご発言の最後の方にありました「目標の見直し・修正」というのは、宇治市だけではなく、全国の総合戦略で行っています。確かに社会情勢が変わった等、色々と分からなくもない理由はあるのですが、先程おっしゃったように「難しそうだから目標を変えよう。数字を変えよう」としているようにも見えるので、この辺についてはやはりしっかりとした説明をしておく必要があるのではないかと思います。他にいかがでしょうか。

委員) 5 ページの世代別社会動態で 0 歳～17 歳が増えているということと、30 ページの 0

歳～17歳の転入超過が続いているということについて、転入超過は引っ越してきた方が多いということですが、そこで不思議に思ったのが、子どもだけで引っ越してきているわけではなく、親も一緒に引っ越してきているのにも関わらず、親世代の30代～40代ぐらいの方々の人数が増えていないのはなぜかと思いました。なぜ0歳～17歳だけ転入超過が続いているのかということは、第3期のことを決めていくに当たり、しっかりとなぜかという原因を突き詰めていただきたいと思います。

委員長) その辺りの分析はいかがでしょうか。

事務局) ご指摘がありました通り、0歳～17歳が単独で転入するということは考えにくいと思っており、親世代がマイナスになっていることを考えると、子育て世帯、お子様を含めた家族で転入される方が多いものの、その親世代に当たる20代～40代の方については、単身で転出されてしまう方がそれを上回っているのではないかと推測をしているところでございます。

委員長) よろしいでしょうか。確かにデータだけ見ると説明がつかないと言いますか、分かりにくい気がしますよね。0歳～5歳が増えていることは良いことではあるのですが、なぜなのかというのが数字だけではなかなか分かりづらいと思います。コウノトリが運んできたのかと思うしかないというような、そんな気もしますが、この辺りが人口ビジョン等を考えていく上で、言い換えれば、総合戦略そのものの根幹に関わってくる部分ですので、分析・検討を十分にし、今後の取組に上手く活かしていくということが、ご指摘の通り、非常に重要かと思しますので、よろしく願いいたします。では、他にいかがでしょうか。

委員) 資料の6ページの間接総括の下部にあります、最後の段落のところもそうですが、人口減少に歯止めが効かないというのは、どこの市でもそうかというように思います。そうなった時に、そこへ向けての具体的な施策の見直し・充実というものは、どのように考えられているのかという点。また、そもそも、人口減少に関しては、どのように課題として捉えられているのか、「このままではまずい」という形となるのか、という部分をお聞かせ願いたいと思います。以上です。

事務局) まず6ページの、人口減少に歯止めをかけるというところですが、宇治市では、先程申しました20歳代の若者の流出というのが課題というように捉えています。なぜ転出されるのかという要因を分析するためにも、今回、転出者や定住意向のアンケートも実施しているところです。そういったところの分析をしながら、これまでの子育てにやさしいまちづくりや、若い方が働く場の創出、市内産業の拡大等、そういった企業誘致にも産業振興という部分で取り組んで参りました。その結果、先程もありま

したように、0歳～17歳のお子様が増えている、そして恐らくそのお子様がおられる子育て世代の方も転入が増えているだろうということで、社会動態の方はまだマイナスではあるものの、その改善は見られているというように評価しています。ただ、一方で、人口減少を食い止めるためには、自然動態というところも重要なファクターです。出生率が低下していくと、どうしても社会動態がゼロになってもどんどん人口が減少していきます。出生率はなかなか難しいところではあるのですが、そこもしっかりと、どういった施策が有効なのかという部分を見極めていく必要があるというように考えております。そういったところで、今後も、出生率の低下をなるべく食い止めるということと、転出・転入というところの社会状態をゼロにしていく、両方の視点から引き続きしっかりと取り組んで参りたいというように考えております。

委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員) 8ページのふるさと応援寄付件数ですが、令和3年、4年と上がっていったのですが、令和5年に下がった要因が何かは分析をされていますでしょうか。件数と金額もやはり下がっているようですが。

事務局) 返礼品を給付額の3割以下に納めるというルールがある中で、人気のある返礼品の調達率・調達額が変わったことによって、寄付額を改定した返礼品があり、それによる影響が出たのではないかとこのように推察をしているところでございます。また、その返礼品が宇治市の返礼品の結構な割合を占めていたもので、そこが伸び悩んだということが一番大きな理由であると分析をしているところでございます。

委員) ありがとうございます。では、それに関して、また何か施策や改善策のようなものは考えていらっしゃいますか。

事務局) 今、取り組んでいるもので申し上げますと、返礼品の充実というのは今までずっと行ってきたことですので、引き続き行っていきたいと考えております。また、コロナ後で、観光客も戻って来られていますので、今後順を追ってになると思いますが、現地消費型や現地での体験型のように、来られた方が実際に現地で使えたり楽しめたりというような返礼品がもっと増やせたら良いと考えています。すぐにラインナップを増やせるわけではないのですが、そのようなところに力を入れていきたいと考え、進めているところでございます。

委員) ありがとうございます。

委員) 中間総括の案をざっとご説明頂いた中で、30ページから若い世代の就労・結婚・出

産・子育ての希望を叶える環境づくりとあります。その中の 35 ページですが、切れ目のない連携教育推進事業、多様な学びの創造事業というところで、インクルーシブ教育システムや、インクルーシブサポーターを配置するというようなことが書いてあります。もしかするとこれまでにご説明があったかもしれないのですが、改めて、今ここに配置しており、どのようなことをされているかを知りたいと思いました。また、隣のページの、地域等協働子育て環境充実事業というところで、一番上の、令和 5 年の「子どもが自分から近所の人に挨拶する割合」に※印が付いており、「子ども子育て支援に関するニーズ調査より」とあったのですが、それはどのようなものでしょうか。大体、大人が近所の人に自分たちから挨拶しているか、というのも最近思いますし、それが成長過程の小・中・高校生とあるのですが、この辺りの割合はどう思っているのかというところが知りたかったです。お願いいたします。

事務局) まず、多様な学びの場創造事業につきまして、令和 5 年度の事業を資料 35 ページにお示しをしているところでございます。令和 5 年度におきましては、モデル校を設定し、そちらにインクルーシブサポーターというものを配置しております。まずは特別支援学校に在籍されている児童・生徒へのきめ細やかな支援及び指導や支援体制の構築というところで、モデル校の方で研究を進めているところでございます。また、インクルーシブサポーターのインクルーシブ教育システムの構築のために、システムを作っていくという事で、サポート会議等を今実施しているところです。ただ、まだモデル校での実施という段階で、今後、事業を進めていくものとなっております。続いて、36 ページの子ども・子育て支援に関するニーズ調査につきましては、こちらのまち・ひと・しごととは別に、子育ての方で、計画の策定に向けたアンケートを昨年度末に実施したものでございます。お子様の年齢別に、お子様自身へアンケートを取り、ともにそれぞれの年代の保護者の方に対してもアンケートを取っているものとなっております。

委員) ありがとうございます。今、インクルーシブという言葉はよく聞く言葉で、何となく聞き流すのですが、今のお話ではモデル校ということですので、今後増えていく可能性があるのだと理解しています。また、専門性が高いとは書いてあるのですが、具体的にどのようなことをされていくのか知ることができたら良いと思います。先程の子どもの挨拶のところは、人に挨拶することが基本的に大事だと思うのですが、なかなか大人でも挨拶できない、ご近所の関係もなかなか今ない中で、逆に自分から誰にでも挨拶するというのは、それはそれで心配だと思う部分もあるので、何が良いかというところの評価は難しいと思い質問いたしました。ありがとうございました。

委員長) では、他に何かございますか。中間総括につきましては、もともと設定した目標、また KPI 等の指標に基づいて、その達成率を中心に評価していますので、今色々ど

指摘が出たような事柄が完全にカバーできた評価にはならず、これが制度・仕組みの限界なのかなというように思います。ただ、達成率が高い・低いということで一喜一憂をするのではなく、特に低かった場合・達成できていない割合が高いという場合は、これは当然原因の究明・解明ということも必要ですし、今後の新しい総合戦略等で、そもそもの KPI として設定しているものが適切なかどうか、さらに遡れば、目標として設定しているものが本当に適切なのか。とりわけ、なかなか社会の色々な側面を特定の数値で把握するということが難しいので、目標設定や KPI の設定によっては、本当の宇治市の良さや、社会・経済の現状が正確に把握できていないということもあります。次期の総合戦略を策定するにあたって、そのような観点でこの中間総括を含め、これまでの評価や分析というものを生かしていただければと思います。それでは、時間の関係もございますので、一旦議事の(1)はこれぐらいにさせていただきますまして、次に(2)の定住・転入・転出に関するアンケート調査へ移りたいと思います。事務局からのご説明をお願いいたします。

議事(2) 定住・転入・転出に関するアンケート調査について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) それでは、委員の皆さんからご質問やご意見をお願いいたします。

委員) 資料の1ページのところにあります有効回収率について、そもそも、有効・無効というものはどういう定義なのかという部分をお尋ねしたいと思います。お願いいたします。

事務局) 今回の調査では、市内在住の方であれば18歳～49歳の方を対象に調査票をお送りしているのですが、例えば、誤って親御様が回答される等、年齢条件に当てはまらない方が回答された場合など、そういったものは回収率の中には含めずに除外させていただき、無効として扱うこととしています。

委員) 私が1つ気になったことは、前回のこの会議でも、アンケートの内容というものを確認し、かなり項目数が多かったのですが、全部回答する方は果たしているのかというところに疑問が浮かびました。もしかすると、1つだけ項目に丸を付けて提出するという形もあるのかなと思いました。そもそも何%以上埋まっているか・埋まっていないのか、という部分の有効数などは出せませんか。

事務局) 例えば、1つだけ回答されている方がいらっしゃったかというのは今のところ見てはないですが、基本的に、今回設問もたくさんありましたので、その中でいくつか漏

れているからといって無効としていることはございません。

委員) では、目視で見た形で行きますと、そこまで回答されていないというような回答用紙は届かなかったということでしょうか。

事務局) 補足ですが、9 ページ以降、設問ごとに表になってパーセンテージを示しておりますが、ここに回答者数があり、全部が 100%として、最後下に無効・無回答等がありまして、全く設問ごとに書いていらっしゃる方はこの無回答というところにそれぞれ該当します。個別ですと非常に少ないパーセンテージではありますが、そういった回答はここで見られると思っています。

委員) 承知いたしました。ありがとうございます。

委員長) 他にいかがでしょうか。

委員) 資料の 51 ページ、転入に関するアンケートの一番下のグラフで、京都市から転入して来た人が 3 分の 1 以上になっているとのことで、京都市内はホテル需要でマンションが高くなり、子育て世代がなかなか家を買えないというのが問題になっているのですが、例えば、このアンケートの京都市内の方々の年齢や、転入してきた理由等のクロス集計はできるのでしょうか。

事務局) クロス集計可能でございます。

委員) もし機会があれば、見せていただきたいです。また、今申し上げたように、子育て世代が流入して、例えば、城陽市や京田辺市、或いは滋賀県の各自治体等、京都市内から来る人が多く、実態としては、各自治体を取り合いという言い方は良くないと思いますが、どんどん流入しているという状態になっている中で、第 2 次計画や、恐らく次の戦略の中でも、子育て政策の充実というのがきっと盛り込まれると思います。そのように、京都市やそれ以外の自治体に住んでいる方に対し、宇治市は子育て政策が充実しているということをアピールする方策は考えておられますか。計画を作るのは良いのですが、他の地域の方に知っていただけるような、手段・やり方のようなものは考えておられるのでしょうか。

事務局) 次の計画に紐づいている具体的な施策というものは、今日の段階では持ち合わせていないところではございますが、子育てにやさしいまちのプロモーションとしましては、これまでも取組を進めております。昨年度を取組のご紹介になるのですが、子育てにやさしいまちをテーマとして、市民の方から PR 動画を公募いたしまして、宇

治市のイベントの中で受賞作品を表彰させて頂いたり、作って頂いた動画を使用し、SNS 等で「宇治市は子育てにやさしいまちである」ということを発信するといった事業を行ったところでございます。

委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員) アンケートの中の具体的なところですが、問 30 あたりから、私の子育て支援をしているということもあり、その辺りが気になって見ているのですが、アンケートの中で意外と「どちらとも言えない」と回答するところが多いと感じます。4割、5割が「どちらとも言えない」という回答で、「選べないのかな。難しいのかな」というものがあったのですが、私たちは子育て支援拠点として、子どもたちや親御さんを含め、親子の居場所というものであると同時に身近な相談できる場所ということで、これまでずっと行っているのですが、36 ページの 18、「子育てについて相談できる相手が近くにいるか」という問いの回答が「どちらとも言えない」という回答が 43.9%と結構大きいと思いました。質問の内容によってはどちらとも言えないこともあると思いますが、「相談できる相手が近くにいるか・いないか」と言えば、「いる」か「いない」かの2択かと思います。ですので、この「どちらとも言えない」という回答は、皆さん、どのような思いがあって「どちらとも言えない」を選択したのかということとをずっと考えています。もしかしたら、「相談できるが、深い相談はできない」「近くではないけど、遠くには相談できる相手がいる」等、そのような想像はしているのですが、この辺りはどのように集計結果を捉えられていますか。

事務局) アンケートの円グラフを並べているところを通して見ますと、委員がおっしゃって頂いた、例えば、子育てや介護福祉施設のサービス等、かなり「どちらとも言えない」という割合が高くなっております。今回のアンケートでは、子育てをされていない方も回答者の中に含まれていますので、当事者の方とそれ以外が回答するような設問に関しては、「どちらとも言えない」という回答の割合が増える傾向にあるのかなと思っております。委員がおっしゃった点をもう少し分析するために、子育て関連の部分については、例えばお子様と一緒に住まいで子育てをされている 20 歳～40 歳の方でクロス集計をする等、ご意見を踏まえてもう少し詳細に分析できればと思います。

委員) ありがとうございます。

委員) 7 ページの、「宇治市に愛着を感じない」という方の中で、「愛着があったが、最近は薄れつつある」という方の理由についてのグラフを見たのですが、2 番目に先程のお話にありました、子育て支援の充実というところが、その方にとっては不満原因の 1 つになっていたのかなというようなことが感じられる数値と思いました。子育て支援、

子育て環境というような言葉があるのですが、もう少し具体的に、例えば、保育所・子ども園・幼稚園が非常に充実していて、教育内容の質も高い等、そのようなことで満足度を感じると思います。地域の中に親子がふれ合える場所がある等はプラスアルファであって、毎日のことである保育の質などを問うような、子育て中の方はどこかの園の所属している方が恐らく多いと思うので、それを質問するような項目はなかったのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

事務局) まち・ひと・しごと創生総合戦略という観点で、子育てされている方もされていない方も含めて今回アンケートを実施しておりますので、詳細につきまして項目を増やすと、やはり回答の数も増えてしまうということもあり、なかなか今回のアンケートには入れられなかったというところがございます。一方で、先程の中間総括でも少しお話が出ていたのですが、子ども・子育て支援に関するニーズ調査というものを、子育て担当部署の方で実施をしております、それをもとに子育て支援計画というものを、今年度、策定を進めているところがございます。そういった子育てをされている方を対象に調査した結果も踏まえながら、創生総合戦略の中でのアンケート結果を踏まえた事業の紐づけ等を今後行っていきたいと考えております。

委員長) 他にいかがでしょうか。

委員) 1点だけ、お聞きしたいこととお願いがございます。先程の社会動態の中で、一番課題だとおっしゃっていた、18歳～29歳の転出の理由ということで聞いた中で、やはり仕事、働く場がなかなか少ないといったところが施策に繋がっていくと思うのですが、この年齢の中に学生もおられると思います。学生にとって、このまちはどうなのか、魅力なものになっているか、という分析というものにはできませんでしょうか。

事務局) 学生やお勤めの方という分類でクロス集計をすることは可能でございます。

委員) そのような意味では、宇治市は非常に魅力あるまちだと思います。大学は少ないですが、京都市内が学生の街ですので、充分宇治市からも通えるという中では、学生が非常に少ないのかなという感覚を私も持っています。そういった学生目線で宇治市の魅力や足りないもの等も、今後の施策に生かすというような観点から分析されてはどうかと思いました。これがお願いでございます。以上です。

委員長) 他には何かございますか。アンケートにつきましては、今何人かの委員からも指摘がありましたように、色々な分析をすることができます。基礎データは全て蓄積されており、クロス集計等はすぐできますので、今ご指摘頂いた以外にも、「これとこれを掛け合わせたら何かが見えるのではないか」というようなご助言があるようでした

ら、この会議の後でも事務局の方にアドバイスをいただければと思います。では、アンケートに関しましては以上でよろしいでしょうか。

それでは続きまして、(3) 第3期宇治市人口ビジョンの案について、ご説明をお願いいたします。

議事 (3) 第3期宇治市人口ビジョン (案) について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。では、ご質問等ございましたらお願いいたします。

委員) ご説明ありがとうございます。この内容とは違うかもしれませんが、数字的に聞きしたい点がございます。宇治市内で今空き家がどれぐらいの比率であるのか。要は、今後人口を増やそうとしても、住む場所が必要になってくる中で、空き家のリノベーション、空き家対策、もしくは新しく土地に建物を建てて軒数を増やすのかといった観点で、人数が増えていくのか、減っていくのか、というようなことで、そのような数字というものはお持ちでしょうか。

事務局) 宇治市の空き家率ですが、概ね10%程度となっております、全国と比較しますと、全国が13%、京都府内でしたら12%ぐらいになっております。全国の数値より少し低いのですが、10%程度となります。

委員長) 他に何かございますか。

人口ビジョンですが、合計特殊出生率が2.07で、確かに人口維持ができる数字ではあり、今の数字から見ると夢のような数字ですので、これをどう実現するかということは非常に難しいと思いますが、ビジョンとしてはこのようなものがある、ということなのかなと思います。この実現をすぐにできるかどうかはともかく、それに近付けるために様々な取組をする必要があるということが、総合戦略の中に盛り込まれていくという、そのような構図になっておりますので、ひとまずこのような目標・ビジョンがあり、それを実現する最も現実的な方法というのをこれからさらに考えていくということでございます。何もしなければもっと下がると思います。少しでも減少を抑えることができれば、最終的には安定に持っていけるということで、推計に基づいてこのようなビジョンを考えておられるということで、ご理解いただけますでしょうか。ありがとうございます。それでは、(4) 次期創生総合戦略の基本目標の案につきまして、ご説明お願いいたします。

議事（4）次期創生総合戦略の基本目標（案）について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長）では、ご質問やご意見がございましたら、お願いいたします。

委員）ご説明ありがとうございます。転入・転出というところで、やはり職場が大きく影響するということはデータでもあります通り、私たち宇治市で働く企業の代表としては、若者の雇用や、魅力ある企業と職場づくりというものを掲げて、私たちも業務に取り組んでいます。その中で、若者に限らず、働き続けるということがその地域に住み続けるというところにも繋がっていくのではないかと考えますが、資料の中にある、活力ある産業振興という基本目標の4番は、私たちも非常に賛同できる内容でもあります。具体的な市内企業の成長支援というところで、私たちは皆さんが働き続ける職場づくりという部分を心掛けるとともに、私たちだけではどうしようもできないような企業のあり方、それこそ最低賃金なども今後働き続ける魅力という点では関わってくると思います。宇治市で働く企業と宇治市の連携について、具体的にどのような形で連携を取られているのか、というところをお聞かせ願いたいと思います。

事務局）まず市内の企業様で言いますと、例えば、資料1の29ページ、中小企業の交流促進事業ということで、様々な事業者間の交流やセミナー等の催しを、これから起業される方に対し、起業家育成プログラムということで色々なセミナーを開催しています。新しい担い手の育成・交流促進という部分を市としては支援し、そのような場を創設しております。先程おっしゃっていただきましたように、若い方がどのような働く場を求められているか等の働く環境について、今後も転入を増やしていくというところにおいては、やはりそういったところのニーズも必要ですし、ニーズを捉えるためにも、市と事業者が交流する場というものがとても大事だと思っております。ですので、引き続きしっかりと力を入れ、産業戦略に基づいてこのような取組を進めていきたいと思っております。

委員）ありがとうございます。

委員長）では、他にいかがでしょうか。

委員）5つの基本目標の並びの順番が、第2期と入れ替わったと思って見ておりました。この順番が、宇治市として掲げる優先順位を表しているのか、事業数等の予算と連動しているのかが、疑問に思ったので教えていただきたいです。
また、基本目標の1番が観光に力を入れており、目標の2番が子育てに関する部分で

すが、子どもを育てている母親としては、京都市内のオーバーツーリズム問題等を聞いていると、「観光に力を入れているまちは子育てがしにくいのでは」というようなイメージがあります。ですので、子育て・出産しやすいイメージの形成というのも目標に掲げているので、観光産業と子育てのバランスというものはどのように考えられているのか、ということをお聞きしました。

あとは、目標 1 の新たな観光資源の創出というところと、目標 4 の新たな産業の創出というところで、「創出」というキーワードがあり、それは「新たに生み出す」ということだと思います。宇治市内の各部署・課がそれぞれに担当されると思うのですが、市民としては、部署・課を越えて連携しながら、このようなことは進めていかないと、創出というものは非常に難しいことですので、各部署・課が連携できる体制が市としてあれば良いのではないかと考えています。

もう 1 つ、定住目標の 3 番のところの「定住促進を図る」というワードがあったと思うのですが、宇治市に来て思うことが、子育て世代の方々が親のそばを選んで家を購入したり引っ越して来たりしているということを感じています。家を購入する・住居を構える時、家を建てる時の基準も非常に高くなってきており、お金も掛かるので、例えば、親世帯・親戚と同居や近居を選んだ時に、自治体からそのような補助があれば良いのではないかと、私自身も感じています。大阪府茨木市や、愛知県豊明市では、親世帯や子世帯と同居や近居すると自治体から補助金がいただけるような制度があるので、検討していただきたいと思いました。

もう 1 つ、基本目標の 1 番で、まずは、観光が入口で観光人口を増やしていくというお話がありましたが、「宇治市って凄く良いまちだなあ」と、観光して頂いた後に「住もう」となった時、「では、どこに相談するのか」となると思います。実際に私の友人や知り合いも、「宇治市が凄く良いまちで住もうと思っている」と言っていますが、その次のアクションが「どこにどのような手続きをするか」ということになります。賃貸不動産会社に行く等、色々考えるのですが、移住コンシェルジュのような存在が、宇治市の情報発信や移住を考えている方々の相談窓口としてあれば良いのではないかと考えています。

委員長) では、順次、お答えをお願いいたします。

事務局) まず、基本目標の順番につきまして、ここに挙げている基本目標 1～5 に関しては、先程から申し上げております人口減少や少子高齢社会への対応として、どれも欠かすことができない必要な事業だと考えております。順番をどうするかということで、こちらとしても色々考えた上で候補を出しました。特に観光に一番力を入れるから、という考えで、このような順にしているわけではないことをご理解いただければと思います。順番としては、地方創生の観点において、観光が宇治市に興味を持っていたくきっかけ、入口であると考え、このような順番としております。

事務局) 順次回答させていただきます。新たな産業の創出ということで、宇治市も色々なものづくりの企業様が頑張っておられ、例えば、農業であれば、お茶の関係で関わる皆様が色々と出られています。今、安田町で工業用地の創出ということで新たな工業用地を作る予定です。安田町は、水田や優良な農地がございますので、そこを例えば、工場用地に転用してはどうか、という取組も進めております。一方では、農業についても、後継者の育成等、農業としてもまだまだ続けられるような仕組みというものも必要ですので、そういったことに関し、部局を越えて作っております。複数の部局にまたがることについては、庁内的なプロジェクトチームを作り、それぞれの課題を共有し、共通認識として持ちながら、お互いがその課題をクリアできるよう頑張っているところでございます。色々な関係機関、京都府との連携も含め、今取り組んでいるところでございます。

事務局) 続いて、他のご質問の内容で、順不同になりますがお答えいたします。

まず観光が目標の 1 つ目にあり、今観光でオーバーツーリズム問題等がある中で、市内で子育てをされる方と政策のバランスをどう取っていくかということについてです。地方創生という今回の戦略の観点では、まずは、冒頭申し上げましたように、宇治市を知っていただき、市の魅力を知っていただくということが大事ではあるものの、移住を選んで頂いた場合は、住みやすさや住環境も非常に大事な観点ですので、ご指摘頂いた通り、そのバランスというものはしっかり見ながら推進していきたいと思っております。

また、定住促進という観点で、家を購入される際に、親から孫までの 3 世代の方で同居される時に補助があれば良いということですが、現在宇治市で行っております、子育てに優しいまち実現プロジェクトの中で、3 世代の近居・同居をされる場合、また、今年度より新たに新婚の方も対象になりましたが、そういった方に対しては、住居の補助をしている事業もございます。まだご存知ない方もいらっしゃるかと思いますので、そういった情報発信も含め、しっかり知ってご利用いただけるように進めて参りたいと考えております。

最後に移住コンシェルジュについてです。「移住したいと思った時に相談する窓口はどこか」ということもお問い合わせを頂いていますが、明確に担当課があるわけではございません。しかし、政策戦略課もそういった移住のところの取組もしており、京都府の各市町村が集まる会議にも出ております。まずは、色々なご一報・ご連絡を頂ければ、関係各所から連携取り、先程申し上げました 3 世代近居等の住宅の補助もございますので、部局横断的にご案内できると思っておりますので、そういった部分をより分かりやすく、今後も発信していきたいと考えております。

委員長) 他にいかがでしょうか。

委員) 基本目標の 4 番についてですが、地域内・市内で雇用を創出するということが記載されているのですが、市外の会社等に対し誘致をどのように進めていかれるのかという部分をお聞きしたいと思います。私に関わっている会社は、京田辺市に本社があるのですが、北九州に工場を出された時に、市役所の方が非常にきめ細やかなサポートをして下さり、地域雇用のこともどこの学校に挨拶に行ったら良いか、地域のどの辺りの方々にご相談に行くか等、全てサポートして下さい、工場の竣工式の時も全て受付もして下さいということをお聞きしました。「非常にサポート体制が充実していたので、その市に新たに工場を出して良かった」とおっしゃっていた方がいましたので、そのようなサポートというのは、補助金のように多大なお金の掛かることでもないと思いますので、市外の会社の誘致に対しどのようにサポートされていくかということをお聞きしたいと思います。

事務局) 宇治市の企業様の場合は、企業様が進出する用地が少ないということがベースとしてございます。例えば、事業を拡張や事業所を広げるという時に、なかなか土地がないといった理由で、残念ながら市外に転出される企業様もこれまでおられました。そういったものも含め、先程申し上げましたが、安田町で新たな工業用地を確保しようとしております。市外からも来ていただけるように、京都府を通じて様々な関係部署と連携を取りながら進めているところでございます。また、産業の部門につきましては、宇治市の商工会議所とタッグを組み、宇治 NEXT という形で行っておりますので、様々な企業様の情報をそこへ頂きますと、京都府の関連部局とも調整しながら、是非とも無事に宇治市に来ていただけるよう、最大限の努力はしているところでございます。

委員長) 他にいかがでしょうか。

副委員長) 資料 1~4 で丁寧にご説明いただいて、色々な事業を行っていただいているということはよく理解ができました。その上で 1 点、宇治市の「位置」が分からないと思いました。位置というのは変な言い方ですが、例えば、宇治市は、地域ブランド調査による魅力度全国ランキング 27 位でした。27 位は凄いです。観光客も、今年、恐らくコロナ前を上回る数の全国インバウンドの方がかなり来られています。京都府下で見たら、京都市に次いで宇治市は 2 番目ぐらいということは、肌感覚で分かります。ただ、全体の計画をお聞きして、人口の推移を見た時に、京都府と宇治市の人口が出ていたので 17 年と 22 年を比べると、京都府全体における宇治市の人口の割合が 0 コンマ数%減っているということで、宇治市は京都府に比べて、人口の減り方が多いということが分かりました。先程委員がおっしゃったように、京都市はどんどん人が出ていっているという中で、宇治市はどの辺りに位置しているのか。例えば、減少レベ

ルが宇治市はまだ緩やかなレベルなのか、全国レベル・京都府レベルより進んでいるのか、何か分かるようなものはございますか。例えば、定量的な数値として、先程人口については出生者数としていましたが、事業所数や従業員数等、そのようなものもご教示いただきたいと思えます。全国と比べて宇治市はどうか。京都府下ではどうか。頑張っている自治体はこのようなことがあり、ここの数値を伸ばしている。では、その自治体はどのような事業を行っておられるのか。そういったヒントになるかも分かりませんので、そのようなこともお教えいただければ、宇治市の位置が分かると思えます。事業者数が減っていることで、「やっていることが悪いのかな」と自己嫌悪に陥ることもあり、「そうではないよ」と思いながらやっていたのですが、事業者数だけ見ればやはり減っているということですので、パーセントで表せるところ、数字で表せるところ、色々と状況は違うとは思いますが、その辺りの数値もご教示いただければ、宇治市の位置が分かるのではないかと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員長) 他によろしいでしょうか。本日お示しいただきました基本目標の案 5 つが、基本目標としてあるわけですが、ここに記載のあること自体に誰も異論はないだろうと思えますし、「これはしてはいけない」という内容のものは、まず無いと思えます。もちろん優先順位や順番等、表現という点では気になったりする部分もあるかと思いますが、この目標を具体的な取組として、どうやって実現していくかということは今後の議論になってきます。そのような意味では、この基本目標の 5 つを大枠として、この委員会としてお認めいただければ、まずはそれをベースに今後の具体的な取組の検討が進みますので、本日はこの 5 つの基本目標について、ご了解いただけますでしょうか。もちろん、これで絶対フィックスして一語一句を変えない、という状態ではまだないと思えます。色々と検討する中で、表現を変える、あるいは、順序を入れ替える等、様々なことが起こるかもしれませんが、枠組みが無いと次の作業に入れませんので、そのような点では概ねご了解いただいたという理解でよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、今後、具体的な内容を踏まえ、実現の可能性等についての様々なご意見をいただきたいと思えます。本日のところはこれぐらいとさせていただきます。予定していた時刻にもなりましたので、本日の議事としては、以上の 4 件で全て終了したことになります。事務局から何かご発言はございますか。

《事務局より事務連絡》

《副市長より閉会の挨拶》

4. 閉会

《委員長より閉会の挨拶》